

演題番号

高校生における自尊感情と自己コントロール力の関連性

事務局記入)

まついかおり
○松井香織(新潟大学大学院教育学研究科)

笠巻純一(新潟大学人文社会・教育科学系)

【目的】 自尊感情や自己コントロール力を高めることは、自己実現を図るための健康教育を考慮する上で重要な要素といえる。本研究では高校生の自尊感情と自己コントロール力の関連を明らかにすることで自己実現に向けての健康教育の一資料とすることを目的とした。

【方法】 新潟県内の高等学校2校の1年生515名を対象に質問紙調査を行った。調査項目は高校生の自尊感情と自己コントロールに関する内容であった。質問紙で用いた自尊感情尺度は、Rosenberg(1965)のself-esteem scale日本語版(山本ら、1982)をもとに阿部¹⁾が一部改編した状態自尊感情尺度を用いた。また、自己コントロール尺度は、中島²⁾による選択的1次(目標達成のための行動)コントロール尺度、補償的1次(自己内の資源のみでは目標の達成が困難な場合に外界からの資源を活用)コントロール尺度を用いた。調査は平成23年11月から平成23年12月の間に行われた。自尊感情と自己コントロールの関連性を相関分析の結果から検討した。スポーツコースとスポーツコース以外(以後、普通コースと表現)に分けて各々分析を行い、項目間の相関を確認した。項目得点の有意差の検定にはt検定を用いた。分析には統計ソフトIBM SPSS Statistics 20を使用した。

【結果と考察】 自尊感情に関する9項目と、自己コントロールに関する11項目の合計20項目について相関分析を行った。コース別に分類せず分析を行った結果、相関係数が0.3以上を示した項

目は、4対であった。次に、スポーツコース、普通コース別に相関分析を行った。相関係数が0.3以上を示した項目は、普通コースの4対に対してスポーツコースは42対であった。また、自尊感情と自己コントロールの尺度得点の相関係数は、普通コースの0.457に対して、スポーツコースは0.603であった。本研究における相関分析からは、スポーツコースに所属している、すなわち何らかの専門スポーツ種目がある群においては、自尊感情と自己コントロールの関連性が普通コースに比べて強いことが示された。

普通コースとスポーツコースの項目得点で有意差が認められた項目は、選択的1次コントロール尺度に含まれる2項目であった。これらの項目から、特にスポーツを得意とする者は、やるべきことに力を注いで不安を解消する力や、失敗要因の把握と行動を修正する力が高い傾向にあることが示唆された。

【結論】 高校生の自尊感情と自己コントロールには、関連があることが確認された。また、普通コースよりもスポーツコースのほうが自尊感情と自己コントロールの関連性が強い傾向にあることが示された。自尊感情は自己コントロール力に影響を与える、あるいは、自己コントロール力は自尊感情に影響を与えることが考えられた。

<文献> 1)阿部美帆、今野裕之 (2007) 状態自尊感情尺度の開発. パーソナリティ研究 16(1), 36-46.

2)中島由佳 (2005) コントロール尺度の作成と信頼性・妥当性の検討. お茶の水女子大学人間文化論叢 8, 183-192.

(連絡先) 松井香織

E-mail ; 15cream-cafelatte4@ezweb.ne.jp